

## 5—2. ランプルストリップス設置による正面衝突事故件数減少効果

表 5-1 は、平成 14 年～平成 15 年における北海道の国道センターライン上にランプルストリップスを設置した 24 箇所、延べ 39km の各施工箇所における整備前 2 年間と整備後 2 年間の正面衝突事故発生状況を示す。

事件数は、42 件から 20 件に減少し、減少率は 52% であった。同様に死者数は 20 人から 6 人に減少し、減少率は 70%、重傷者数は 24 人から 19 人に減少し、減少率は 21%、軽傷者数は 89 人から 55 人に減少し、減少率は 38% となり、死者数の減少に最も寄与した結果となった。

ランプルストリップス整備後に正面衝突事故が発生している区間は、縦断勾配、曲線半径がきつ、積雪・凍結等の冬期間の気象条件も厳しい一般国道 274 号等の峠部である。このような区間は、中央分離帯等により物理的に正面衝突事故を防ぐことを検討することが必要である。

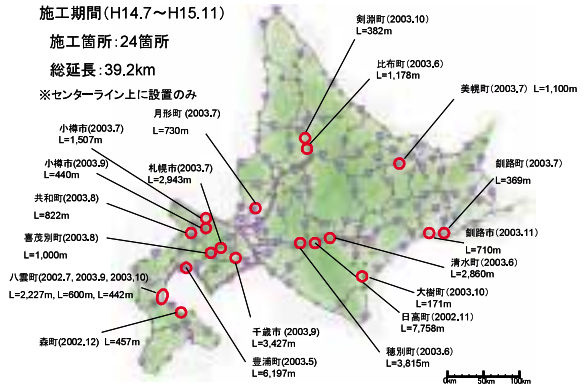


図 5-1. 平成 14～15 年のランプルストリップス施工箇所

表 5-1. 平成 14～15 年の施工箇所における整備前後の正面衝突事故

正面衝突	整備前2年間	整備後2年間	減少数	減少率
事故件数(件)	42	20	-22	52.4
死者数(人)	20	6	-14	70.0
重傷者数(人)	24	19	-5	20.8
軽傷者数(人)	89	55	-34	38.2

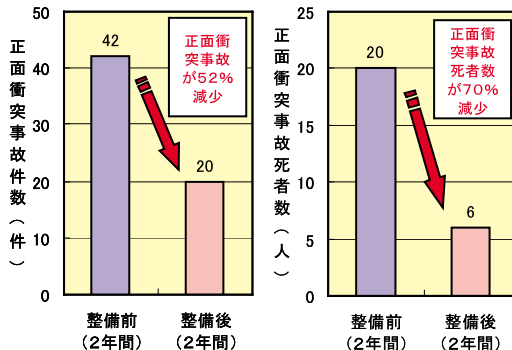


図 5-2. 平成 14～15 年のランプルストリップス整備効果